



“ガス窯作りのプロ集団・株大築窯炉工業”の

陶芸家と窯屋を結び超アナログ情報誌

2008・6月号

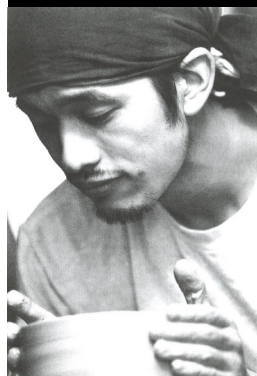
# 月刊 窯ナビ

必ず良いことがある人のために送る！  
DAICHIKUのお得意様向けニュースレター

ウラ面も情報満載

【発行日】2008年6月30日 【発行人】株式会社大築窯炉工業 谷口浩司  
〒309-1611 茨城県笠間市笠間2192-5 TEL0296-72-1444【ホームページ】<http://www.daichiku.jp/>

## ユーザーさん紹介 井上壘氏



作陶中の井上壘氏  
【連絡先】  
〒309-1693笠間市石井  
E57-1  
・F0296-72-1139

### 【好きなことをトコトンやる！】

谷口：やきものお仕事にするきっかけは？  
井上：大学時代にお世話になった陶芸家・青木亮さんの生き方がかっよよく見えたんです。  
谷口：それはどういうところですか？  
井上：好きなことや、やりたいことはトコトンやる人でした。すっかりお世話になってしまい、今でも恩返しをしたいと思っています。  
谷口：どんな時にやりがいを感じますか？  
井上：何をやっても反省することが多いんですが、それによってまた新たな目標ができることで、やりがいを感じますね。お客さんの話を聞いて、日常的により使ってもらえるものを作ることもやりがいです。  
谷口：お客様からどのようなことを褒められるとうれしいですか？  
井上：私の作品を使っていることを話してくれるだけでうれしいです。長く使ってほしいので修理もできるだけでやっています。  
谷口：最近一番うれしかったことは何ですか？  
井上：仕事上で知り合った仲間がたくさんできたことです。  
谷口：ご自身のお好きなところと嫌いなところは？  
井上：やりたいことに対しては、トコトンやりきりたいと思って取り組めるところかなあ。嫌いなところは、やらないことはやらないこと(?)。  
谷口：今年の目標は？  
井上：薪窯を作りたいと思っています。マンネリ化した仕事をしたくないんです。自分が楽しむためのやきものも創ってみたいですね。それによってお客さんにも喜んでもらいたいですね。

**【大築窯炉のガス窯を選んだ理由は？】**  
灯油窯の良い所とそうでないところを良く知っていたので、安定して良く焼けるガス窯を探していました。先輩陶芸家の意見を聞いて決めました。

**【大築窯炉のイメージは？】**  
お世話になってます(笑)。細かい相談にのってくれることとか、ちょっとした疑問にも応えてくれるところ、かなっ。

### 井上 壘 [Inoue Rui]

**略歴**  
1975・福岡県生まれ、千葉・東京にて育つ  
1996・第1回 益子陶芸展 入選  
1999・東京造形大学デザイン学科 類卒業  
・益子・笠間にて作陶活動を始める  
2000・陶展<町田 Gallery むう>  
2001・現住所に築窯  
2002・粉引と赤絵展 出展<鎌倉 工芸ゆう>  
2003・お結び展<御茶ノ水・世界観ギャラリー>  
2004・陶展<千葉 ギャラリー呂久呂>  
・酒器展<日本橋 丸善>  
<新宿 パークタワー OZONE>  
2005・陶展 <千葉 ギャラリー呂久呂>  
<松戸 伊勢丹お得意様サロン>  
・2人展 <御茶ノ水 世界観ギャラリー>  
<静岡 伊勢丹>  
2006・陶展 <恵比寿 三越>  
<千葉 ギャラリー呂久呂>  
<松戸 伊勢丹お得意様サロン>  
・酒器展<丸の内 丸善>  
2007・陶展<恵比寿 三越>  
<千葉 ギャラリー呂久呂>  
<結城 ZEN>  
<横浜 うつわ美土>  
・小品展 <座間ギャラリーアニータ>  
・BOTAN うつわ展<中馬込 木嶋舎>  
・2人展 <益子 益古時計>  
・4人展 <笠間 かつら陶芸>  
2008・陶展 <宇都宮 淡風荘>  
8月<千葉 ギャラリー呂久呂>  
・East&West『未来を紡ぐ土の交感』展  
・笠間茶陶研究会展<笠間 工芸の丘>

### 【主な活動】

笠間茶陶研究会・会員  
益子国際陶芸協会・会員  
2006益子国際陶芸祭実行委員  
魯山人茶会実行委員長  
益子陶器市「かまぐれの丘」にて出品

うれしい！楽しい！大好き！ダイチク！メッセージ！

一見誰にも遠慮なく、精力的に作陶活動をしているようですが、お世話になった師への恩返しを忘れないでいるという井上さん。師の生き方に感銘を受け「トコトンやる」という言葉

を何度となく聞きました。

「壘」という字には「まもる」という意味があるそうです。奥様は愛さん、お子さんは心(しん)君。愛と心を壘る33歳です。

### ユーザーの個展・展示会の情報募集

当社ではユーザの個展・展示会の情報を募集しています。ダイレクトメール(DM)などの案内書ができましたら、弊社までお送りください。当ニュースレター「月刊・窯ナビ」やホームページ上でご紹介させていただきます。グループ展や小さなイベントでもOKです。どしどしお寄せください。費用は一切かかりません。

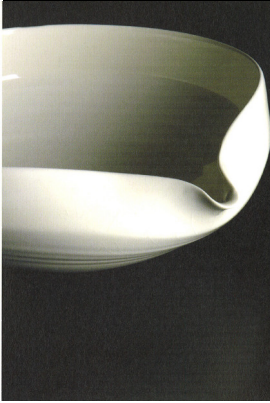
### お客様に学ぶ今月の格言！

「好きなことややりたいことは、トコトンやる！」

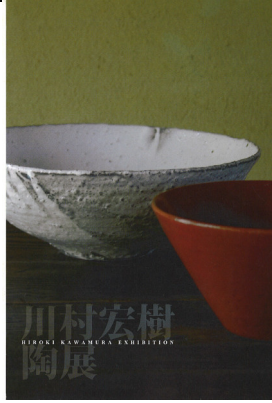
### ガス窯・電気窯/ダイチクの貸し窯

ガス料金高騰につき価格改定いたしました。  
ガス窯0.4㎡・・・本焼き18,000円・素焼き7,000円  
ガス窯0.1㎡・・・本焼き8,000円・素焼き4,000円  
電気窯8kw・・・本焼き5,000円・素焼き3,000円  
初回焼成指導料(任意)・・・5,000円  
・使用期間中はボットミルの使用は無料  
・電子レンジ・仮眠室あり(無料)  
お申込みは、直接または0296-72-1444(金沢)まで

# ユーザーさんの個展情報



**森川泰治 作陶展**  
2008年7月19日(土)～  
8月1日(金)  
回廊ギャラリー門



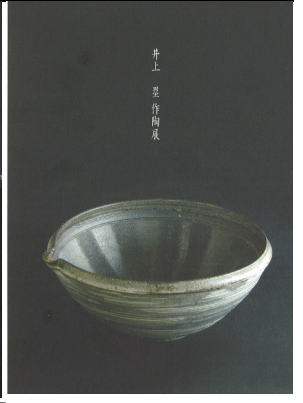
**川村宏樹陶展**  
2008.6.14sat—6.29sun  
**STARNET**  
益子町益子3278-1  
TEL: 0285-72-2270



**石川 己洋 作陶展**  
2008年7月2日(水)～7月7日(月)  
山交百貨店5階催事場  
甲府市丸の内1-3-3(甲府駅前)  
TEL055-237-0111



**島田 緋陶志・恭子二人展**  
6月13日(金)～21日(土)  
ギャラリー加古  
水戸市河和田町1-1545-7  
029-255-6005



**井上 壘作陶展**  
2008.6.21sat—6.30mon  
ギャラリー淡風荘  
宇都宮市桜4-16-21  
028-622-3309

## 陶芸羅針盤 私の釉薬“はじめの一步” 秋元智香(県窯業指導所釉薬科終了)

釉薬は英語で“glaze”といいます。ガラスは“glass”といいます。これからも分るように釉薬とガラスは親戚関係にあるといえます。日常生活で使用されているガラスというものは厳密にはモノの名前ではなくガラスという状態のことを差すと聞いたことがあります。ガラスの基になる成分(SiO<sub>2</sub>・二酸化ケイ素など)は1710℃以上でないと熔けません。このままだと非常に高温でないと熔けないので、低い温度で熔けやすくする成分を混ぜて原料をつくり、コップや窓ガラスを製作しています。コップや窓ガラスは‘ガラスの基になる材料’と‘溶かすための材料’でできています。釉薬の場合は、‘ガラスの基になる材料’と‘溶かすための材料’に加えて粘土でできたボディに‘つなぐための材料’が加わります。釉薬に用いられる原料のひとつである“灰”を単味で素地にのせて焼成した場合、ガサガサだったり剥がれたり、流れてしまうことがよくあります。これはガラスになる素の材料とボディに定着させる接着材が足りないからです。釉薬はガラスと同様、‘ガラスの基’と‘溶かす成分’が必要です。さらにボディに‘つなぎ合わせるもの’という三つの要素があって初めて釉(うわぐすり)になるといえます。“灰”は溶かす成分がほとんどです。粘土はつなぎ成分とガラスになる成分が入っています。この2種の組み合わせでも釉薬になるのですが、もっと安定させるために用いられる原料が長石です。長石は「溶かす」「つなぐ」「ガラス」という釉薬としての役割がすべてそろっている優れた原料といえます。その良い例が志野です。志野釉は長石だけを主体とした釉薬として広く知られています。釉薬は長石を出発原料として灰を入れて熔けを良くしたり、粘土分を加えることでボディとの密着を良くしたりします。また、粘土は釉の粘り気を出す役割や、沈殿防止などにも効果があります。粘土は「つなぐ」「ガラス」の「つなぐ」にウェイトがあります。「ガラス」の部分のみ調整したい場合は珪石、ワラ灰を用います。釉薬の原料にはそれぞれ三つの役割が重複する部分があったり、ひとつだけ強い場合があるので、調合して焼いてみると原料の特性が良く理解できるので、初心者の方はいろいろ混ぜて試してみると良いと思います。

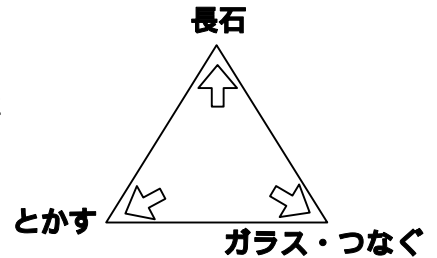
### 【ワラ灰はなぜ他の灰と違いガラス(珪石)の仲間に入るのか？】

稲という植物は細長い形をしています。その茎の先端には米という重いものを実らせなければなりません。そのため土壌から茎が丈夫に育つための珪素(SiO<sub>2</sub>)を吸収します。この稲わらを燃やして灰を作ると、他の植物の灰とは異なり珪酸分が非常に多く取れます(もみ殻も同じ)。これは私が釉薬について興味を持った頃に知って、とても感動しました。こんな植物が他には無いものだろうか、ワラ灰を見るたびに考えてしまいます。(参考文献:釉がわかる本 手島敦著 双葉社)

陶芸で使われている灰類の化学分析値 「陶芸のための科学」より抜粋

種類	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	CaO	MgO	MnO	K <sub>2</sub> O	Na <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	焼失量	計(%)
ワラ灰	82.18	1.36	0.42	3.69	1.35	0.004	2.48	0.36	0.68	6.58	99.10
土灰	14.08	3.69	1.94	35.9	5.44	0.41	1.49	0.55	2.14	34.32	99.96
柞灰	27.07	1.17	0.18	39.00	1.15	0.007	0.23	0.25	0.48	29.83	99.367
松灰	24.39	9.71	3.41	39.73	4.45	2.74	8.98	3.77	2.78		99.96

### 三角座標の見方・考え方



△の方向に原料が増えてゆきます。基本的な原料(長石・陶石など)を三角形の上に置きます。合計は常に100となります。3つのどれかの頂点に近づくほど、その原料が多くなります。上は安定方向、左は流れる方向、右は熔けなくなる方向の釉薬ということになります。

### 灰釉の主な原料とその中身

	とがす	つなぐ	ガラス
長石			
灰			
粘土			
ワラ灰			
珪石・珪砂			

「釉がわかる本」より引用

他の灰類に比べて、ワラ灰のSiO<sub>2</sub>が非常に高い数値を示しています。

### 編集後記「あとかんげん」

やきものを窯で焼く場合、二つの焼成方法があります。ひとつは酸化焼成、もうひとつは還元焼成です。陶芸家はこの二つの焼き方を駆使して自分の作品を完成させてゆきます。では、酸化、還元にはどういった意味があるのでしょうか。私たちの生活している地球には酸素が存在します。この酸素は長い時間をかけて物質を酸化させてゆきます。特に金属が酸化すると表面から色が変わってゆきます。鉄からは茶色のサビが、銅が酸化すると緑色の緑青(ろくじょう)が生成されます。これは釉薬を理解するうえでひとつのヒントになります。酸化焼成とは釉中の酸化金属を短時間で急激に酸化させる焼き方です。これに対して還元焼成は釉中の酸化金属から酸素を奪ってしまうという焼き方ですから、生物が生きられる自然界では考えられない化学反応といえます。言い換えると還元焼成は、金属が酸化される前の状態に戻してあげる、という作用です。ですから酸素におかされていない金属本来の色に近いものといえます。私たちが還元焼成で焼き上げた作品を見るとき、これはどういった酸化金属が本来の色を取り戻したもののなのか？ということ想像しながら見ることも、やきもの楽しみの一つではないでしょうか。